

# 合併20周年を迎えて 二十歳の主張

この度、美郷町は合併満20年を迎えました。みなさんでこの大きな節目を喜び合いたいと思います。またこの間、みなさんはそれぞれの想いを持って生活を重ね、私も行政も想いを持って各般の取り組みを重ね、その結果、美郷町は確実に一体感を成長させています。この成長もみなさんで確認し、喜び合いたいと思います。

さて、かつて某放送局主催の「青年の主張コンクール」というイベントがありました。一定年齢以上の方はご記憶があるものと思います。その後、タイトルを「青春メッセージ」と変え、美郷町が誕生した平成16年に幕を下ろしております。前段の「青年の主張コンクール」は二十歳を迎える方々を対象にした大会でした。設定されたテーマに対して論旨明快に主張を展開するその発表は、同年代の頃の自分にはとても新鮮で、感心した記憶が残っております。――主張を展開する機会を二十歳の節目に求めたことが、この企画の肝であるわけですが、ここに節目に

対する向き合い方への示唆があるように思います。一般論ですが、私たちは人生に関わる節目において、自分と向き合って評価と反省を行い、併せて将来への展望と努力の方向に思いを馳せることが求められるように思います。その節目が人生において大きければ大きいほど、思慮深く真摯な向き合い方が求められるわけですが、最初の大きい節目が二十歳の節目だろうと思います。だからこそ、この企画が長い間多くの方から支持され、多くの方の記憶に残っているのだらうと思います。

では、次元が違う美郷町の二十歳の節目はどうでしょうか。私たちはどう向き合い、何を考えれば良いのでしょうか。行き着くところは同じではないかと思えます。20年という時間経過に対する社会的評価を踏まえ、私たちは自分の努力を含む美郷町の来し方を再認識し、評価と反省を行うこと。そして、課題を踏まえつつ望む将来を描き、近づくための努力の方向を考えること。それが求められるように思

います。また、そうした一人ひとりの思慮の総体、つまりは主張の総体が、美郷町の今後を規定していくように思います。もちろんその核心には、期待や希望、夢があらねばなりません。期待や希望、夢こそがすべての行動の熱源、原動力になるからです。

この度の節目、美郷町の「二十歳の主張」をそれぞれが考える節目となるよう、そして成長していくための強い意志を持つ節目となるよう、みなさんで意義深い機会にしていきたいものです。



美郷町長

松田知己



美郷町議会議長

## 森元淑雄

「光陰矢の如し」という言葉や「年年歳歳」という言葉がありますが、平成の合併において県内第一号となりました美郷町も、早20年となりましたことを町民の皆様と共にお慶び申し上げます。

合併に際しての考慮すべき事案は、町名の選定や合併後の行政機関をどこに設置すべきかということ等であります。町名は「美郷町（びのさとのまち）」と決まったほか、役場本庁は旧千畑町役場の場所となり一段落しました。その後、20年が経過する中で様々な取り組みをまいりました。公共施設の再編成や、小中学校の統合も旧町村の垣根を取り払うべく施策の一つでありました。また、議会としても「開かれた議会」を念頭に置き、住民と議会の懇談会の開催や、町民の皆様にご覧でもらえるような議会報の充実、そして最近においては、念願であった議会基本条例の制定や次回改選時における議員定数の削減等、議会改革にも取り組んでまいりました。今後その時々に応じた改革をチーム一丸となつて取り組んでいかなければな

らないと思うところです。

ところで、福島県矢祭町は全国に先駆けて「合併をしない宣言」をし、大きな注目を集めました。当時の根本町長は、国に対して「合併するかどうかは、町民にどのくらい恩恵があるのかが一番大事だ」と言っておられました。行政の効率化と財政難解消を理由に合併を迫ることに疑問を呈し、住民本位に立脚した人物でした。住民本位の立場で国や県に物申す態度は、首長や議長には必要な資質であると考えます。その点、美郷町はどうであったでしょうか。町づくりが円滑に進むように第2次総合計画においては、「人づくり」に主眼を置いた施策に努め、そして、第3次総合計画（令和4年度～11年度）では各般の施策を実施中であります。町政に携わる者としては、維持すべきことは何を差し置いても維持しようとする頑固さに加え、変えていくべきことは思い切つて変えていく勇氣も不可欠であるとも考えます。

私の好きな言葉の一つに「挑戦」という言葉があり

ます。秋田県は高齢化率と人口減少で全国一位であり、その意味でも美郷町が思い切つた変革を構築し、実行できたとするならば、今後の高齢社会の新たなモデルともなり得ましょう。さらに、高齢者は年々健康になつており、心身の衰えについても昔とは違っています。知識も経験も豊富な高齢者の活力をフルに社会に生かす仕組みができれば、正に「美郷モデル」と呼ばれるようなものが出来上がるでしょう。皆が生きやすくなる次世代の社会モデルの構築に「挑戦」していきませんか。今、世間の注目を浴びているメジャーリーガーの大谷選手は、誰も成し得ていないことに「挑戦」し続けております。私たちも町がどんな未来へと向かうのかを注視し、そして常に「挑戦心」をもち続けることで、より豊かな未来へと視界が開けることを願ひ挨拶いたします。

## 「現在」「過去」「未来」の美郷へ向けて